

2017 春 たたらの郷 西播磨佐用へ 原チャリで駆ける」



古代からのたたらの郷西播磨佐用 四季折々の山里の景色が魅力 もう訪ね始めて何年になるだろうか？

四季折々幾度となく訪ねる。各地の桜便りが届きだす春四月初め、佐用のカタクリが咲きだす時期に合わせて、春になると古代たたらの山里 佐用へ原チャリを走らせるのも恒例。

4月12日 今年は天候が安定せず、やっと神戸の桜の花も満開になり、カタクリの花に出会えるか心配しつつ、遅れていた佐用へ播州路を原チャリで駆けてきました。

佐用への播州路の山里 草木燃え、山は芽吹いて桜満開の桜街道。久しぶりに佐用漆野の一本桜 光福寺の大系桜に出会えるのもうれしい。うまくゆけば桜とカタクリの両方。だめでも爽快な桜街道原チャリ ツーリングが楽しめると

2017 春 たたらの郷 西播磨佐用へ播州路を原チャリで駆ける」

1.佐用へのへの播磨路 花街道

- 1.1. 西神戸・小野から北条・加西へ 桜堤をトラバース
- 1.2. 中国道に沿って 新緑と桜の山崎断層の中を山崎・佐用へ
- 1.3. 宍粟(山崎)と佐用を隔てる切窓峠を越えて佐用へ

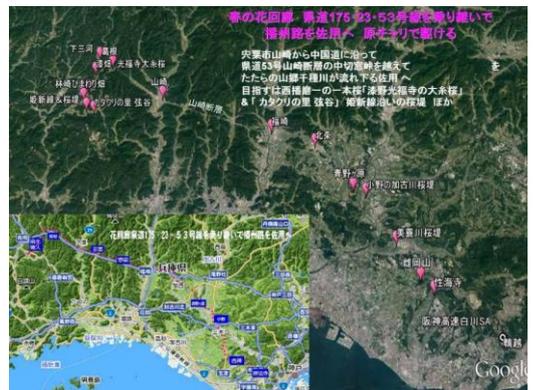
2.千種川が流れ下る古代たたらの郷 佐用の桜

- 2.1.古代たたらの里の一本桜 漆野 光福寺の大系桜
- 2.2.姫新線の列車が走る志文川の花堤 久保大橋

3.春の妖精 カタクリ 旧三日月町 弦谷

冷たい風に立ち向かって、身を震わす

4.walk を振り返って 2017 年 西播磨佐用へ播磨路原チャリ walk 帰路でし終えて



佐用への播州路の山里 草木燃え、山は芽吹いて桜満開の桜街道。久しぶりに佐用漆野の一本桜 光福寺の大系桜に出会えるのがうれしい。うまくゆけば桜とカタクリの両方。だめでも爽快な桜街道原チャリ ツーリングが楽しめると。

西神戸から佐用へ通過する山里・街道筋はどこもかしこも芽吹きと桜満開の素晴らしい山里の春景色。また、西播州一の一本桜 漆野光福寺大系桜も満開の枝を四方に垂らす素晴らしい姿。播州の春爛漫。

姫新線が走る志文川の花堤で桜の中を走る列車も撮れました。

また、心配していた弦谷のカタクリは、盛りは過ぎていましたが、元気に冷たい風に身を震わせて 立ち向かう姿を見ることができ、デジカメ Video に収めることができました。出会えたら幸運といわれる「白いカタクリ」の姿もその中に…。今年もうれしい春の妖精 カタクリとの出会いになりました。

気分晴れ晴れ、今日一日を思い浮かべつつ また一年 がんばるぞ!! と



【写真アルバム】2017春 たたらの郷 西播磨佐用へ 原チャリで駆ける」2017.4.12.

【写真アルバム】 2017春 たたらの郷 西播磨佐用へ播州路を原チャリで駆ける」
1 佐用へのへの播磨路 花街道 1.1. 西神戸・小野から北条・加西へ 桜堤をトラバース 1.2. 中国道に沿って 新緑と桜の山崎断層の中を山崎・佐用へ 1.3. 宍粟(山崎)と佐用を隔てる切窓峠を越えて佐用へ
2 千種川が流れ下る古代たたら郷 佐用の桜 2.1. 古代たたら郷の里の一本桜 漆野 光福寺の大系桜 2.2. 姫新線の列車が走る志文川の花堤 久保大橋
3 春の妖精 カタクリ 旧三日月町 弦谷 冷たい風に立ち向かって、身を震わす
4 walkを振り返って 2017年 西播磨佐用へ播磨路原チャリwalk 帰路でし終えて



1. 佐用へのへの播磨路 花街道

1.1. 佐用へのへの播磨路 花街道【1】 西神戸・小野から北条・加西へ 桜堤をトラバース



川の土手には満開の桜 里山は芽吹き 田には菜の花・レンゲソウ・タンポポ 春爛漫の花街道



1.2. 佐用へのへの播磨路 花街道【2】 加西から中国道に沿って新緑と桜の山崎断層の中を山崎・佐用へ



両側を山で挟まれた狭い山崎断層の中 福崎から山崎への道はまさに桜の回廊



1.3. 佐用へのへの播磨路 花街道【3】

山崎からは山深い峠道 宍粟(山崎)と佐用を隔てる切窓峠を越えて佐用へ



2. 千種川が流れ下る古代たたら郷 佐用の桜



- 2.1. 西播磨——一本桜 満開の古代たたら郷 漆野 光福寺の大系桜
- 2.2. 姫新線の列車が走る志文川の花堤 旧三日月久保大橋

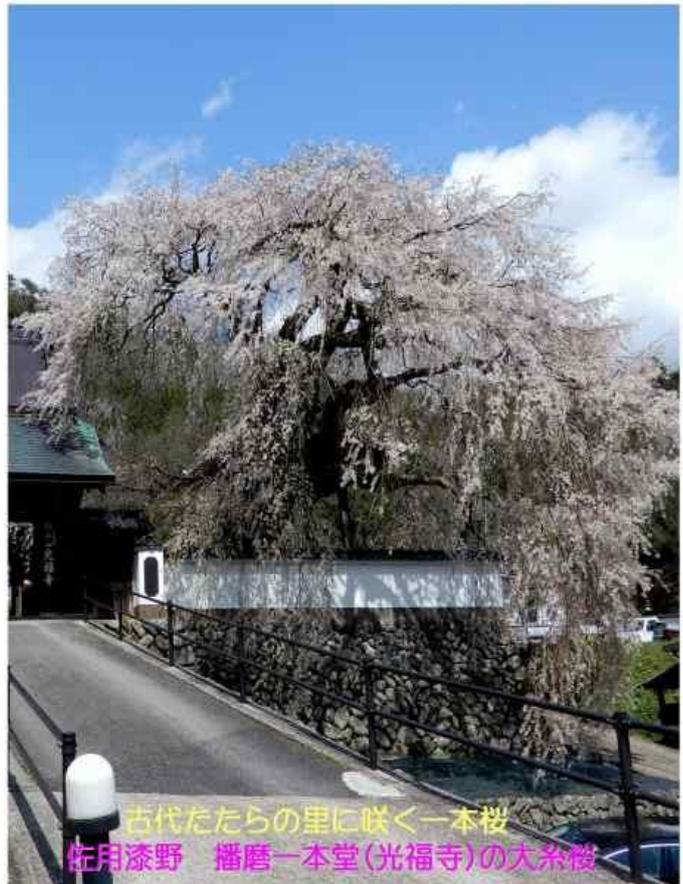
2.1. 西播磨——一本桜 満開の古代たたら郷 漆野 光福寺の大系桜 2017.4.12



◆ 2017年の一本桜 佐用 漆野 播磨一本堂(光福寺)の大系桜 一本桜には人・里それぞれに思いがある 2017.4.12. 佐用町漆野

古代のたたら郷に咲く一本桜
佐用漆野 播磨一本堂(光福寺)の大系桜
2017.4.12. 佐用町漆野

古代から開けたたたら山郷 宍粟と佐用を結ぶ県道53号の街道筋、下三河のT字路から、北の千種から南へ三河谷を流れ下る千種川沿いへ少し入った漆野。その本村地区にある光福寺は1696年に再建された時に1本のケヤキから建てられたため、近隣の人たちが「播磨一本堂」と呼ばれるようになった。この再建を記念して境内に植えられた枝垂れ桜は、樹齢300年、根回り8m、高さ13mで、毎年春になると、枝一杯に糸を垂らしたような花姿で、鐘楼を包み込むように花を咲かせる。その姿は華麗 幻想的で「播磨一本堂の大系桜」と呼ばれる西播磨一の一本桜となった。特に垂れ下がった枝の長さがひととき美しい。千種川が流れ下るこの漆野周辺は古代のたたら製鉄地帯で、早くから開けた街道筋。春になると漆野集落で満開の花をつけ、華麗な姿を見せる糸桜はこの街道筋・漆野集落のシンボルであり、誰言うとなく「播磨一本堂の大系桜」と呼ばれ、親しまれ、今もこのたたら山郷・街道筋のシンボルとして守り継がれている一本桜。毎年春 漆野山郷佐用を訪ねるうちに、この糸桜の美しい姿に出会い、春佐用を訪ねる楽しみの一つとなりました。もっとも カタクリと漆野の大系桜が満開の花をつける時期が異なり、両方を一気に見られることは少ないのですが、今年は満開の素晴らしい大系桜の姿を見ることができました。また この千種川が流れ下る街道筋はたたら山郷と言いつつ、漆野の里の具体的なたたら跡などの位置を知りませんでした。千種川を挟む本村地区・段地区いづれにも古いたたら跡の痕跡があること知ったのも収穫。



2.2. 姫新線の列車が走る志文川の花堤 旧三日月久保大橋



3. 春の妖精 佐用旧三日月町 弦谷のカタクリ 冷たい風に立ち向かって、身を震わす



◆ 佐用三日月 カタクリの里 弦谷 春の妖精「カタクリの花」

見言葉は
 「初恋」・「寂しさに耐える」

地球(河原)の生き残り
 8年かけて 地表に顔を出し
 日陰の山腹の斜面で 冷たい風に身を打ち震わせ
 立ち向かう姿に 心をゆさぶられる
 深い山腹を古代たまたまの星を舞人だ
 予備山志文川谷が流れる
 四季折々 花が咲く静かな花の山脈
 兵庫県 佐用町
 その山脈の傾斜地に
 春の訪れを告げる「カタクリの花」の群生地
 旧三日月町 弦谷



愛らしい春の妖精「カタクリの花」
 花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
 陽が陰り始めた山の斜面でまだ冷たい風に立ち向かって身をふるわせる
 私の一番好きな花の一つ 今年も出会えてよかった



